

生活協同組合コープおおいた
総合企画室広報課

〒870-0278 大分県大分市青崎1丁目9番35号
TEL.097-524-0119 FAX.097-524-0129
<https://www.oita.coop>

2030
ViSiON

コープおおいた2030年ビジョン



CO・OP OITA REPORT 2024

コープおおいたレポート



〔生活協同組合コープおおいた基本理念〕

『安全・安心、豊かな暮らし』

一人はみんなのために、みんなは一人のために

組合員のくらしや地域社会でうまれた課題解決に向け、事業と活動をととして社会的な取り組みを推進しています。人と人の結びつきを大切に、地域のくらしを支え、コープおおいたのある街に住んでよかったと思っていられるような存在でありたいと願っています。

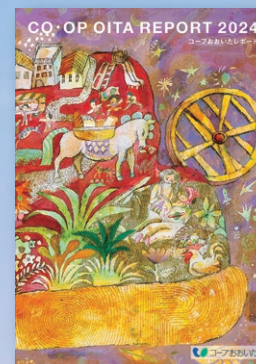
CO-OP=Co-operative

生協はよりよいくらしを願う消費者一人ひとりが組合員となって参加し、出資、利用、運営する協同の組織です。営利を目的とせず事業を行う、自主的な消費者団体です。

〔コープおおいたレポート2024 編集方針〕

コープおおいたは事業と活動をととして、地域のくらしと社会をよりよくするためにCSR活動(企業の社会的責任)に取り組んでいます。コープおおいたレポート2024では、「コープおおいた2030年ビジョン」を指針とし、SDGs(持続可能な開発目標)との関連性を共に伝え、主な取り組みを抜粋してご報告いたします。

対象期間:2023年4月～2024年3月



〔表紙イラスト〕

表紙は、大分県在住の絵本作家「ザ・キャビンカンパニー」による、大分の人々に寄りそい、夢のような未来へと導いてくれる「コープおおいた」を、方舟になぞらえたオリジナル作品です。

CONTENTS

基本理念
トップメッセージ
大分県と県内すべての市町村と締結
包括連携協定
災害支援
コープおおいた2030年ビジョン
事業案内

P2	特集	
P4	特集1	コープ南春日オープン
P5	特集2	キッチンカープロジェクト
P6	特集3	みんなのスペース めく森
P8	特集4	手作業でこまめに管理 農業節減で育てる産直野菜
P10		大分市 赤峯農園

トピックス	P20
環境	P22
リサイクル活動	P25
コープおおいたと地域の歩み	P26

コープSDGs行動宣言

2015年、国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。コープおおいたも世界中の人々と共にSDGsの実現に貢献することを約束し、全国の生協と一緒に「コープSDGs行動宣言」を掲げています。



組織概要 (2024年3月31日時点)

創立 / 1952年(昭和27年)12月
代表者 / 代表理事 理事長 青木博範
組合員数 / 186,858世帯(世帯加入率37.7%)
出資金残高 / 73.01億円
総事業高 / 203.9億円
供給高 / 宅配119.2億円 店舗77億円
福祉事業収入 / 2.4億円
従業員数 / 238名(正規職員)、521名(定時職員)
本部所在地 / 大分県大分市青崎1丁目9番35号
事業エリア / 大分県全域
グループ会社 / (有)ヒューマック大分
(株)コープハウジング大分
(株)コープサービスおおいた
(株)コープキッズおおいた
(株)ハートコープおおいた
(株)夢ファームおおいた

これまでも、これからも 共に助け合い、 時代の変化に対応する コープおおいたへ



組合員をはじめ、生産者・取引先のみなさん、生協とつながりをもってくださっているみなさん、日頃より、私たち生協の事業や活動に、深いご理解と温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

今年は、佐伯市と姫島村と「地域包括連携協定」を締結しました。これで大分県と県内すべての市町村と締結することになりました。全国の生協の中でも、初めてだと聞いています。

ただ、協定を結ぶことが目的ではないので、生協と行政、自治体と連携しながら、地域が抱えるさまざまな課題の解決に寄与していきたいと思っています。それが、コープSDGs行動宣言が目指す「誰一人取り残さない。誰もが安心して住み続けられる地域社会」の実現につながります。

今年1月1日、石川県の能登半島で大規模災害が発生しました。多くの尊い命が犠牲になりました。心よりご冥福をお祈りするとともに、今なお苦しい生活を余儀なくされている被災者のみなさんに、心よりお見舞い申し上げます。

生活協同組合コープおおいた
代表理事 理事長 青木 博範

私たち生協では、東日本大震災発災後の災害復旧・復興支援活動をととして、被災地に“思い”を馳せ、被災者のみなさんに“寄りそう”ことを行動指針としてきました。

今回の「能登半島地震」でも、一日も早く、一日でも長く、一人でも多くの被災者のみなさんに温かい食事を提供したいと、震災直後ではありましたが、能登町の避難所に炊き出し支援に駆けつけました。

また、今後の支援活動を考えるにあたり、再度4月に、炊き出し支援と災害ボランティア支援に行ってきました。

東日本大震災から13年が経過しましたが、今も「ふくしまの復興支援活動」は続いています。それは、被災地・被災者のみなさんに寄りそいながら、気持ちをひとつに、絆を紡いできたからだと思っています。この気持ちは、福島県も石川県も同じです。どちらも大分から離れていますが距離は関係ありません。

ただ、生協だけでは、難しいこともたくさんあります。どうぞ、みなさんのご支援、ご協力をよろしくお願いします。

2024年、大分県と県内すべての市町村と締結 包括連携協定



2013年より、大分県を含む19の自治体と各分野の関係団体、事業者、大学などと包括連携協定を締結しています。地域社会の一員として、役割を果たすため、多様化するくらしに対応する事業展開とともに地域が抱えるさまざまな課題の解決と持続可能な地域社会を目指しています。



佐伯市

2024年3月12日に佐伯市と18例目となる包括連携協定を締結しました。



姫島村

2024年3月26日に姫島村と包括連携協定を締結しました。これによりコープおおいたは大分県を含むすべての市町村と包括連携協定を締結しました。



締結自治体と 締結年

2017年 杵築市
2017年 臼杵市
2017年 日出町

2017年 豊後大野市
2017年 大分県
2018年 日田市
2019年 大分市
2021年 玖珠町
2021年 由布市

2021年 別府市
2021年 津久見市
2021年 九重町
2022年 宇佐市
2022年 竹田市
2022年 中津市

2023年 国東市
2023年 豊後高田市
2024年 佐伯市
2024年 姫島村

協定のもと実行していること



宅配カタログ掲載

「食べよくれ! おおいた」で佐伯市特集を掲載しました。海の幸からスイーツ、甘酒などさまざまな商品が組合員から好評でした。今後も各地域とのつながりを大切に、地場産品の販路拡大に努めます。



災害支援報告会

コープおおいた災害支援先発隊CODRAの災害支援活動報告会を行いました。大分県社協との協定項目のもと、実際の支援活動や平時からの自治体とのつながりなどを報告しています。

災害支援



令和6年能登半島地震

2024年1月11日～1月19日、石川県能登町で炊き出しボランティアを行いました。

NPO法人リエラを通じて石川県能登町役場および能登町社会福祉協議会より要請をうけ、3部隊に分かれて「キッチンカーむすびや」による炊き出し支援を行いました。

メニューはとり飯、牛丼、カレー、おでん、味噌汁、豚汁の炊き出しをし、温かいものや野菜が入ったものは「久しぶりに食べる」と大変喜んでいただきました。予定していた食数よりも多くの要請があり、第2陣・第3陣と連携し追加の炊き出しを行いました。

避難所には高齢者も多く、中には小さなお子さんの姿もありました。雪が降り積もる中での避難生活は辛いものだと想像できます。

また、道中では道路の陥没や建物の倒壊が多くあり、被害の大きさを目の当たりにしました。

いち早い復興を願うとともに、今後も炊き出しボランティアをはじめさまざまな形で支援を続けてまいります。

1 物資積み込み



災害支援に赴くにあたり、さまざまな企業さまより物資のご協力をいただきました。いただいた物資は被災地での炊き出し支援に活用しました。

2 能登半島での炊き出し



炊き出し要請のあった避難所全9カ所を回り、約900食を提供しました。

3 災害支援ボランティア報告会



2023年度の災害支援を振り返り、被災地で感じたこと・気づき・問題点などを報告しました。

4 能登半島地震緊急災害募金

令和6年能登半島地震
緊急災害募金にご協力下さい

日本ユニセフ協会から日本生活協同組合連合会を通じて支援要請があり、コープおおいたでは宅配と店舗にて緊急募金に取り組みました。集まった募金は、日本生活協同組合連合会より義援金および支援金として分配されます。

募金金額 19,011,331円(店舗:202,331円、宅配:18,809,000円)

たくさんのご協力ありがとうございました。

令和5年7月日田市豪雨災害

7月16日・22日、8月19日の3日間、日田市で災害ボランティアを行いました。

1 CODRAメンバーによる災害支援



NPO法人リエラの要請で、役員・従業員計19名が集まり、日田市小野地区・大鶴地区での泥出し・洗浄・災害ごみの撤去を行いました。

7月には日田市複合文化施設AOSEと大鶴地区公民館で、8月には小野地区で計3回の炊き出し支援を行いました。

2 屋台をイメージした炊き出し



日田市内の避難所に身を寄せている地域住民の方へ炊き出し支援を行いました。日田市内では祇園祭りが開催されている中、避難されている方はお祭りに行けない方がほとんどで、少しでもお祭り気分を味わえるような食事を、AOSEと大鶴地区公民館に避難されている方へ提供しました。



また、コープおおいたよりNPO法人リエラに支援金を贈呈しました。

3 天の川コンサートでの炊き出し



2023年8月の豪雨において、日田市小野地区では7月に続いて大きな災害に見舞われました。被災された方々に心休まる楽しいひと時を過ごしていただきたいと、地域おこし協力隊の「すずれ元気村」が企画する支援コンサートの開催時に炊き出し支援を行いました。

COLUMN

コープおおいた災害支援先発隊

CODRA
コ ド ラ

2020年に発足した災害支援先発隊（通称：CODRA）は、有事の際にいち早く被災地へ駆けつけ、どのような支援がどれくらいの期間必要なのか等を迅速に判断し、支援活動につなげます。平時から実技研修や防災・減災に関する学習を重ねています。

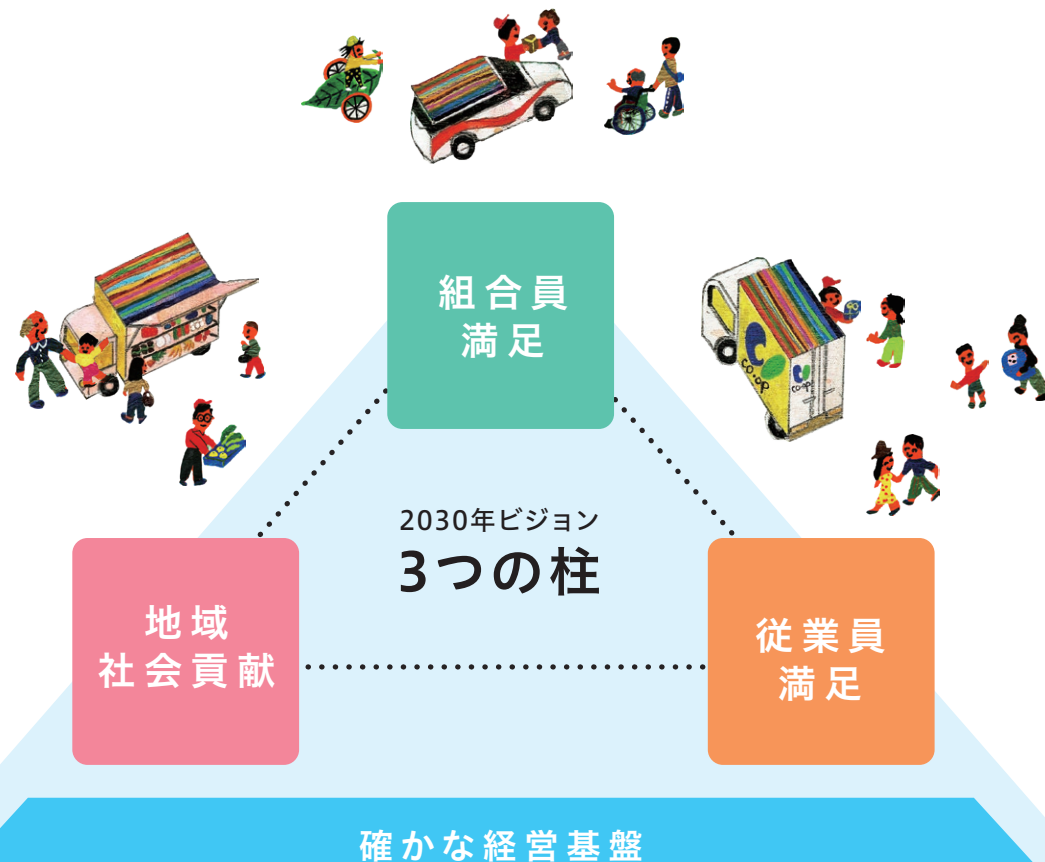
Coop コープ
Oita おおいた
Disaster 災害
Recovery 復興
Assistance 支援

2030 ViSiON

コープおおいた2030年ビジョン

みんなの暮らしに**満足**を！
～ここでもらう、コープがある。～

2030年の自分を、家族を、大分を、そして世界を想像しながら、
毎日の暮らしが今より満足であるように。
その笑顔のそばに、いつもコープおおいたがあるように。



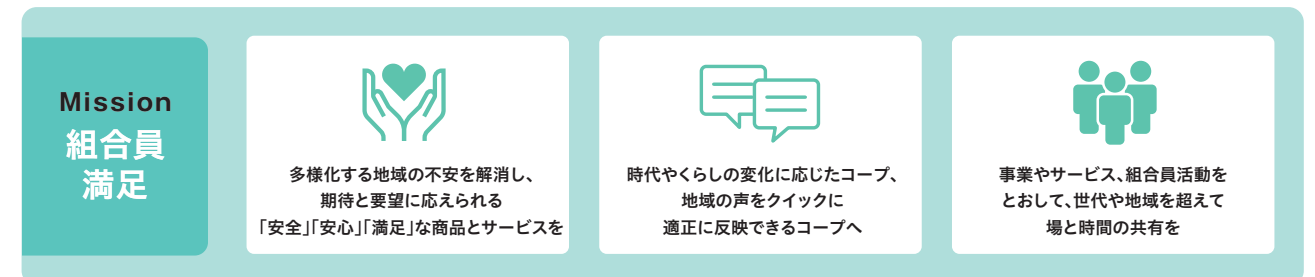
10年後のありたい姿

生協は協同の心を大切に、社会問題の解決や公平な社会システムの実現のために活動しつづけてきました。今までもこれからも、地域でくらすみんなが満足し、笑顔あふれる社会を実現していきます。人と人のつながりを大切に、誰一人取り残さない持続可能な地域社会を見据え、コープおおいた2030年ビジョンを掲げます。私たち“みんな”の新たな10年間ははじまっています。

人とつながる、地域とつながるコープ



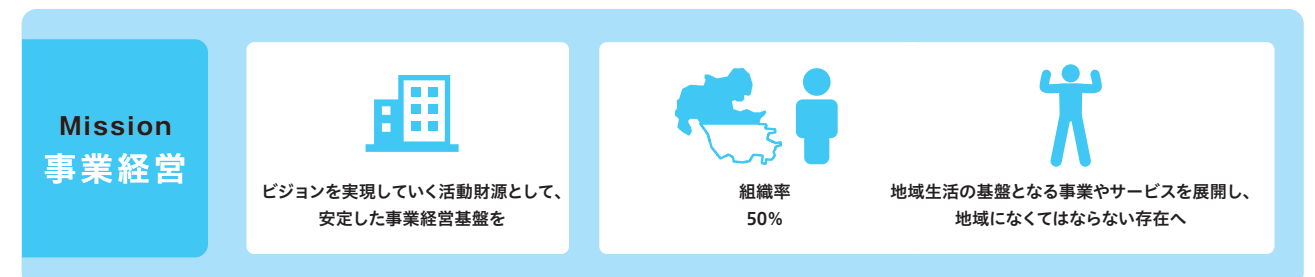
暮らしに役立ち、寄りそい、支え合うコープ



自信と誇りを持って、安心して働きつづけられるコープ



みんなが安心して、確かな将来設計ができるコープ



「コープおおいた2030年ビジョン」では
より詳細な行動目標などの情報を紹介しています。
コープおおいた2030年ビジョン <https://www.oita.coop/2030vision/>





宅配事業

信頼される商品を、心を込めてお届け

山間部や一部離島を含む大分県内全域で、共同購入・個人配達・法人配達を展開しています。徹底した品温・品質管理のもと、ご注文商品をご家庭や施設にお届けしています。毎日の配送をとおして、地域や高齢者の見守り活動も担っています。

共同購入

ご近所にお住まいのお友だちやお知り合いを誘って3名以上のグループを結成し、指定の配達場所に週に1回、決められた曜日と時間に注文商品をお届けします。週に1度のコミュニティの場にもなり、宅配のベシクな利用方法です。



個人配達

週に1度、決められた曜日と時間にご自宅へ注文商品をお届けします。ライフスタイルの変化や利用者のニーズに応えた利用方法です。

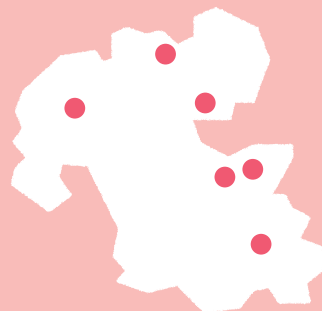


法人配達

大分県に許可された福祉・教育施設などへ食材や雑貨・消耗品をお届けします。商品を一括で注文することが可能となり、施設の従業員さんの業務軽減にもつながっています。



—— 事業所 ——



- 日田センター
- 宇佐センター
- 日出センター
- 畑中センター
- 二目川センター
- 三重センター



店舗事業

来るときには楽しみを、帰るときには喜びを

コープおおいたのお店は県内に7店舗。コープ商品をはじめ、産直野菜や生鮮食品など「より良いものをより安く」をキーワードに地域のニーズに合わせた品揃えを展開しています。資源回収やプラスチック製品の削減など、環境に配慮したお店づくりを推進しています。一部店舗には調理室や集会室などの組合員施設があるのも特徴です。

Cataroカードでお得にお買い物

Cataroカードは組合員証兼電子マネー機能付きポイントカード。事前にチャージすることで会計時に現金を出す必要がなくスムーズに支払いをすることができます。



お買い物サポートカー事業

日常のお買い物にお困りの方や、高齢者を中心としたお買い物弱者支援策として、店舗への無料送迎サービス「お買い物サポートカー」を運行しています。ご自宅からお店まで車で片道およそ15分圏内の利用者を、専用車両でコープおおいたのお店まで送迎し、お買い物を楽しんでいただくサービスです。

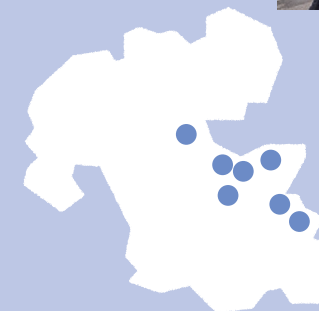


移動店舗販売事業

生鮮食品から日用雑貨まで多様な商品を載せた移動店舗販売車両が大分県各地を回ります。商品は出発前に職員が積み込み、コースや季節ごとに異なるさまざまなニーズに応じて品揃えしています。利用者と職員のコミュニケーションの中で育まれる信頼関係と「くらしをより良いものにしたい」という双方の気持ちを大切にしています。



—— 店舗 ——



- コープ別府店
- コープ南大分
- コープ大分駅店
- コープ南春日
- CO・OPふらいる
- コープうすき
- コープつくみ





生活サービス事業

くらしのさまざまなニーズに応じて

高齢者施設の運営やちょっとしたお困りごとの支え合い、保障の相談など、くらしを支援するさまざまな事業を展開しています。

福祉事業

「コープに、いつまでも安心して自分らしくくらせる場所があったら」そんな組合員の声から、福祉事業所を臼杵市に3カ所、大分市に2カ所開所しています。近年では臼杵市にはサービス付き高齢者向け住宅「彩(いろどり)」、大分市には小規模多機能ホーム「にじいろ下郡」を展開し、サービスの幅が広がりました。

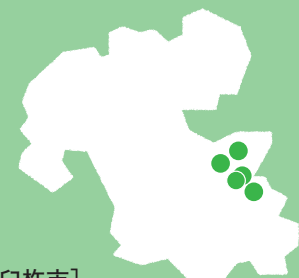


スマイルさぼーと事業

「コープくらしの助け合い活動」を2014年度に事業化したスマイルさぼーと。お庭の草取りや掃除、食事づくりなど、くらしのちょっとしたお困りごとを組合員どうして助け合い、支え合う活動です。各地域に研修を受けたサポーターが在籍し、支援を必要とする利用者のくらしに寄りそっています。



—— 福祉事業所 ——



- 【臼杵市】
 ●にじいろ ●にじいろ2号館
 ●サービス付き高齢者向け住宅「彩(いろどり)臼杵」
- 【大分市】
 ●にじいろ二目川 ●にじいろ下郡

共済事業

コープ共済連・こくみん共済coopから事業受託し、宅配や店舗で保障をおすすめしています。組合員の声から生まれたさまざまな保障は、時代のニーズに応え、現在も進化を続けています。



関連・子会社

コープハウジング大分

コープ自由設計の家屋建築、外壁塗装や水まわりなどの住宅総合リフォーム



水まわり相談会

有限会社 ヒューマック大分

各種保険取り扱い、プレイガイドやドローンスクールの運営など



ドローンスクール

株式会社 コープサービスおおいた

コープおおいたの宅配業務受託、弁当宅配、介護食宅配、宅配水、その他請負事業



配達の様子

コープキッズおおいた

保育園や放課後児童クラブなどの児童福祉施設の運営、行政・各団体と連携した子育て支援



発表会

ハートコープおおいた

就労継続支援A型事業所の運営や作業受託などの障がい者福祉事業



菌床しいたけの収穫体験

夢ファームおおいた

農産青果物の生産・流通・販売、新規就農支援、地産地消の推進



食育・体験農場



FEATURE

特集 1



コープ南春日オープン

2024年2月9日プレオープン、10日～12日グランドオープンの計4日間、多くの方にご来店いただきました。

コープ南春日は大分市近郊にあり、「地域の組合員さんが毎日、お買い物したくなるお店づくり」を従業員一同目標に掲げています。

県下最大級の100円ショップセリアや、旬のフルーツを使ったフルーツサンドが大人気のたかじょう青果が常設店舗として併設されており、お買い物ついでに気軽にお立ち寄りいただいています。

また、同敷地内にはマンションが完成予定で、より多くの方々のくらしを支える店舗を目指します。



プレオープンからの4日間で、新規加入者は600人を超え、開店前には連日行列ができるほどの大盛況ぶりでした。



レジでは連日多くの組合員による長蛇の列ができました。



オープニングプレゼントとして、先着500人の方に紅白饅頭とエコバッグを配布しました。



オープン記念弁当は素材にこだわり、とり天やおはぎなどコープ惣菜の人気商品を詰め込み販売しました。



コープおいたの店舗としては初のピザ窯を導入しています。焼きたてのピザの提供は、多くの組合員から好評を得ています。

FEATURE
| 特集 | 2



キッチンカープロジェクト

このプロジェクトは生産者と消費者をつなぐ橋渡しを使命とし、自らがシェフとなり食を通じて生産者の思いを消費者に届け、地場産品の普及に寄与します。

また、“誰一人取り残さない社会づくり”に貢献すべく、子ども・大人食堂といった地域の居場所の創出や、災害発生時の出動など、社会の輪をつなぐことにも寄与します。実際に令和6年能登半島地震の際には、災害時の炊き出し支援トラックとしても活動しました。

私たちが提供する食を通じてさまざまな人をつなげたい、という思いを込めて「むすびや」と名付け、大分県内各地のイベント等にも出店しています。



キッチンカー「むすびや」は大分県の食材を使ったおむすびを販売しています。



大分トリニータの試合開催時にも出店しました。



大分駅前のイベントにて。メニューの一部を別府大学短期大学部の学生さんたちに考案していただきました。コンテストを行い、その結果5品を商品化してイベントで販売しました。



大分県産の食材を使ったおにぎりコンテストを、市町村対抗で開催しました。たくさんのアイデアが集まり、地域の特色を生かした個性豊かなおにぎりが出そろいました。最優秀賞をはじめとした4品を実際に商品化し、イベントで販売しました。

FEATURE
| 特集 | 3



みんなのスペース めく森

2023年12月、大分市森町の空き家をお借りした「みんなのスペース めく森」がオープンしました。

赤ちゃんからお年寄りまで、年齢や国籍、障がいの有無を問わず、誰もが思い思いにゆっくり過ごせる場所です。「公園」のように行きたい時にふらっと立ち寄れて、出入りも自由。そんなホッとする場所をつくっています。

企業提供でいただいた食材やフードドライブを活用し、利用者とお昼ごはんを作るといった、コミュニティの場にもなっています。

めく森インスタグラムでも情報を発信していますので、ぜひご覧ください。



めく森インスタグラム



事前申し込みや予約の必要はありません。毎週水曜日から土曜日の10時から17時までオープンしています。



地域の方と一緒にご飯を作ってみんなでお昼ごはん。持ち寄っていただいた食材も合わせて活用しています。



年末には近所の子どもたちと一緒に餅つきを行いました。



利用者が分かりやすいように月毎の行事を黒板に書き込んでいます。お知らせしたいイベントのチラシ等も掲示。



FEATURE

特集

4

生産者訪問レポート
Producer visit report



つくる責任 つかう責任
コープおおいたは、持続可能な消費と生産のサイクルを確保します。

手作業でこまめに管理 農薬節減で育てる産直野菜

大分市 あか みね 赤峯農園



『赤峯農園』代表の赤峯収さん。
白ネギ畑の前で。直売やネット販売も行っている。Instagramでの発信も積極的に行っており、農園には県内外から常連客が訪れる。

大分市戸次は肥沃な土壌に恵まれ、昔から農業が盛んに行われてきた地域。特に、ごぼうの産地として知られています。全盛期は40軒近くあったごぼう農家も、現在は生産者の高齢化や後継者不足等の影響により数軒のみ。そのうちの1軒が、コープおおいたの産直生産者として20年以上お付き合いが続く『赤峯農園』です。

同園の畑は25カ所に分かれており、すべてを合わせた広さは東京ドーム約1個分(1万2,000坪)。代表の赤峯収さんが4人の従業員の方とともに20種類以上の野菜を栽培しています。コープおおいたの産直野菜として出荷しているのは、ごぼう、キャベツ、人参、白ネギ、ほうれん草、水菜、ブロッコリー、スイートコーンの8種類です。

「自分の家族や自分に関わる人たちに『食べてもらいたい』と思える野菜しかつくりたくない」という赤峯さんの思いから、『赤峯農園』では農薬節減栽培に取り組んでいます。農薬節減で栽培すると害虫が発生しやすくなりますが、昨年のように夏の暑さが続くと、いっそう害虫が発生しやすくなるそうです。その対策として畑に防虫ネットを張り、収穫した作物の中に害虫がいらないか一つひとつ確認しています。また、除草剤を少なくしているため、雑草は生えてきたら抜く、の繰り返し。それでも「安心して食べ



『赤峯農園』の野菜はほぼ露地栽培。写真はブロッコリー畑。

られる美味しい野菜を」と、手間をかけて農薬節減栽培を続けています。

『赤峯農園』のもうひとつの栽培の特徴が、ほとんどすべての工程をマンパワーで行っていること。近年、機械やロボットを導入した農業が進んでいますが、同園では植え付けから収穫、出荷までほとんどが手作業。水やりも、水のいったタンクをトラックにのせて、一つひとつの畑をまわり、じょうろで水やりをしています。

「農業は植え付けや収穫が注目されがちですが、生育状況や気候変化に合わせた日々の管理が大事です。植え付けから収穫まで、ずっと手をかけ



人参畑で生育状況をチェックする赤峯さん。



包装も一つひとつ手作業。朝収穫した野菜は、翌日には店舗に並ぶ。

で育てているからこそ、一つひとつの野菜への思い入れは大きいですね」と赤峯さん。

農作物の出来ばえは気候に大きく影響されます。ここ最近では気候の変動が特に著しく、対応に悩まされているようです。ある年は台風の影響で、1日にして作物が全滅してしまったこともあったそう。昨年の夏は暑くて雨が少なかったため、苗の時点で枯れてしまったものもあったようです。

そんな苦勞の絶えない農業を続ける赤峯さんの原動力となっているのは、野菜を食べた人たちの喜ぶ声だと言います。「産直交流会やコープのお店で、直接組合員さんと交流する中で、『美味しかったから、またつくってね』『この人参しか食べられない』という声を聴けるのが何よりうれしいです」と話します。「赤峯農園」の産直野菜は現在の生産量の関係から、コープおおいたの一部のお店と、カタログでは不定期で取り扱っています。「今後、取り扱い店舗や企画回数を増やせるように頑張ります!」と、赤峯さんよりうれしいお言葉をいただきました。店頭やカタログで見かけたら、ぜひお試しください。

赤峯農園の産直野菜

生産量の関係により、コープおおいたのお店(一部店舗を除く)のみでお取り扱いしています。宅配カタログでも不定期で掲載しています。

●白ネギ



●ほうれん草



春どり 秋冬どり

●ごぼう



春夏どり 秋冬どり

●人参



●水菜



●ブロッコリー



●スイートコーン



●キャベツ



コープおおいたの「産直」とは

単なる産地直送ではなく、つくる人と食べる人がしっかりとつながっている「産地直結」です。

産直3原則

- ①生産者・産地が明らかであること
- ②栽培・肥育方法(農薬・肥料・飼料など)が明確であること
- ③生産者と組合員が交流できること

産直マーク

野菜・果物・米については、「作物栽培慣行レベル基準」に対してどれだけ農薬を削減して生産されているかを★の数でお知らせしています。

・野菜
・果物
・米



農薬を使用せず生産



農薬を50%以上削減



農薬を30%以上削減



産直3原則を満たして生産

・畜産
・たまご
・水産



福島支援

東日本大震災から13年が経過しました。新型コロナウイルスの規制が緩和され、昨年度も多く交流・学習の機会を得ることができました。



● 福島物産展を開催

2023年8月23日・24日にJR大分駅前広場で開催された記念イベントでも「ふくしま物産展」を開催しました。コープおおいたでは東日本大震災の発災以降、風評被害に苦しむ被災地に寄りそい買い支えの活動を続けており、ふくしま物産展はこの大分の地で、ふくしま県産品を多くの方にPRすることを目的としています。2日間とも多くの方に来場いただき、大盛況となりました。また、コープおおいたの店舗でも福島県産の桃を販売し、連日多くの組合員さんにご購入いただきました。



● 福島県視察訪問

2022年度に続いて、2023年度も新人職員を中心に福島県を訪問。実際に被災地を訪れ当時の様子を見て、聞いて、震災の爪あとと復興について学びました。



● 大分県内の小学生が福島県新地町に招待

2023年8月5日～7日、前年に引き続き、福島県相馬郡新地町から大分の子どもたちをふくしまに招待いただきました。大分県内の小学校5・6年生17名が新地町の震災復興について、新地町の歴史や文化を学び、アウトドア体験も行いました。

子育て支援

子育てをするための豊かな心を育み、親子のコミュニケーションをサポートします。



● はじめてばこ

「はじめてばこ」は、これからたくさんの「はじめて」に出会う赤ちゃん、ママ、パパを応援するため、特製の「童謡カード」やさまざまな企業からのプレゼントを詰め合わせています。コープおおいたでは、地域社会貢献と子育て支援の取り組みとして、箱詰め作業と各ご家庭への配送を担当しています。箱詰め作業は、グループ会社の(株)ハートコープおおいた(就労継続支援A型事業所)が担い、働きがいとやりがいの創出へとつながっています。

※箱の中身は時期や協賛企業によって変わります。

● ベビカフェコープ

育休取得中の従業員とそのお子さんが集まり、子育ての状況や、「保活(保育園に入るための保護者の活動)」について交流し、育児時短勤務中の先輩から体験談や、どのような働き方をしているのかを伝えました。育休明けの勤務や必要な書類などさまざまな不安を解消することができ、子どもたちのかわいい笑い声とママたちの元気な声が聞こえる、和やかな会となりました。



● 中学生職場体験

大分市王子中学校の生徒が、コープ大分駅店で職場体験に臨みました。実際にレジ打ちや品出しを行い、生徒たちは初めての経験に緊張しながらも楽しんでくれたようです。



● 県との子育て交流会

大分県と結ぶ地域包括連携協定に基づき、大分県福祉保健部と共に、現役のお母さんと行政が子育てサービスについて意見交換できる交流会を開催しています。



● ふれあい体験農場

九重町では田植えと稲刈り体験を、豊後大野市清川町では畑の種まきや収穫などの農業体験を行っています。食べ物がどのように育てられて家庭に届け、調理されて食卓に並ぶのかを、体験をとおして親子で学んでいます。

残された時間はほんのわずかしかないんです

専務理事 江藤 隆康



2024年、今年の桜の開花は、早かった昨年に比べるとかなり遅かったですね。夏の猛暑は昨年に比べて少しは緩和されるのでしょうか？年々安定しなくなる四季や季節外れの現象、迷走する台風やその発生件数等々、具体的な局面時にしか、その異常気象の背景にある地球温暖化のことを意識しないというのが、残念ながら私たちの日常生活の実状です。

さて、昨年も「カーボンバジェット」について少し触れました。地球温暖化を50%以上の確率で1.5℃以内に抑えるために、2030年までに残された可能排出量は、概ね200GtCO₂程度と推測され、現行の推移は世界的に見て、減少の兆しを感じられないのが実態です。このままだとおよそ5年間で許容量を超え、気温上昇がさらにすすんだ未来しか残されていないということです。残念なことに、この問題に関する世界的なリーダーシップは今後も期待できず、COPの議論はただの文面だけの価値でしかない現在、私たち個々が、身近な取り組みで抵抗する以外には、

為す術がないと考えるしかありません。だからこそ、企業責任・個人責任の範疇ではありますが、継続して一緒に環境課題への解決策を推進していこうではありませんか。

全国の生協では、「コープサステナブルアクション」を展開しています。環境や社会問題について、共に「知り」「学び」「アクションする」仲間を増やし、持続可能な世界の実現を目指す取り組みです。2023年度は、37の生協で32万を超えるアクションが、組合員活動の支援策として繰り広げられました。2024年度も引き続き取り組みを広げていきます。こうした身近な取り組みの積み重ねが、環境への関心の底辺を広げ、価値を高めていくことにもつながっていきます。抜本的かつ画期的な環境対策案の立案は専門家に任せつつ、私たち消費者一人ひとりが、身近に取り組める行動の積み重ねで、未来の世代へバトンを渡せるようにしていこうではありませんか。ぜひ、ご一緒をお願いします。

「生協の2030環境・サステナビリティ政策」

10の行動指針

関連するSDGs目標



2030環境目標設定に向けた取り組み

2017年5月、日本生活協同組合連合会2030目標検討委員会は、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対し、SDGsやパリ協定など国際的な枠組みを踏まえた温暖化対策の方向性と、生協が目指すべき削減水準について、以下の「提言」にまとめました。

- ① 自生協で2030年温室効果ガス削減計画を策定し実践を開始すること
- ② 省エネ対策を徹底し、設備や車両を環境の視点から見直していくこと
- ③ 再生可能エネルギーの電源開発に生協全体で取り組むこと
- ④ 組合員と共に、学び、共感を広げていくこと
- ⑤ 地域と共に持続可能な社会をつくる動きを作り出していくこと

環境基金委員会報告

コープおおいた本部事務所から排出される古紙などや各店舗のリサイクル食品トレー・有料レジ袋の益金を「環境基金」として積み立て、環境活動や助成事業に取り組んでいます。



大分県地域環境保全基金寄付金

大分県と締結している「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」にもとづき、有料レジ袋で得られた益金の一部を、環境保全の取り組みに役立ててもらう目的で大分県へ毎年お贈りしています。



絵本の贈呈式

環境基金の一部を使用し、県内の幼稚園や保育園へ環境をテーマにした絵本を贈呈しています。モノを大切にする心を育む環境教育の充実のために取り組んでいます。

地球温暖化防止の取り組みと結果

環境方針「各事業所におけるエネルギー使用の効率を高めて、供給高1億円あたりのCO₂排出量を、定期的に実測把握・検証し、抑制」することを重点に、事業と環境の連動に取り組みました。

2023年度のCO₂総排出量は、4,751(t-CO₂)となり、2022年度の3,804(t-CO₂)から24.9%増加しました。供給高1億円あたりのCO₂排出量は、24.59(t-CO₂)で、2022年度の20.06(t-CO₂)から22.6%増加しました。

※九州電力の電力量全体に占める火力発電電力量の割合が増加したことから、前年度に比べCO₂排出係数が大幅に増加したため、排出量前年対比の算出に大きく影響しています。(係数前年比137.5%)

●2023年度の取り組み結果(供給高1億円あたりのCO₂排出量)

		使用量	単位	CO ₂ (t-CO ₂)	供給高	供給高1億円あたりのCO ₂ 排出量	2022年度参考値
電力	九州電力※	8,790,240	kWh	3,578	193.22 (億円)	24.59 (t-CO ₂)	20.06 (t-CO ₂)
燃料	LPG	8,116	m ³	24			
車両 燃料	ガソリン	260,874	L	605			
	軽油	208,533	L	538			
	LPG	2,039	m ³	6			
合計				4,751			

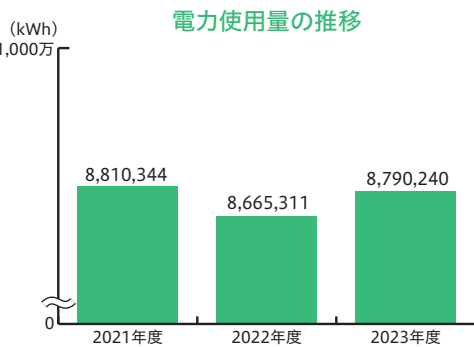
電力使用量削減の取り組み

- 主な取り組み**
- ①空調・冷設備室外機の高圧洗浄による空気吸入量アップ
 - ②空調・冷設備室外機への散水により吸入空気温度低減
 - ③冷設備室外機の外気ショートサーキット防止対策
 - ④冷設備機器のメンテナンス・更新

電力使用量の推移

2023年度の電力使用量は8,790,240kWhとなり、2022年度対比で1.4%の微増となりました。

※2024年2月10日にオープンした「コープ南春日店の電力使用量:159,032kWh」を考慮すると、2023年度は8,631,208kWh(2022年度対比 0.39%減)であり、既存店舗はほぼ横ばいで推移しました。



燃料使用量削減の取り組みと結果報告

- 主な取り組み**
- ①安全エコドライブの実施
 - ②安全に確実な配送を基本に、より効率的なルート of 工夫 (配送ポイントの増加とルート効率化を安全・正確さを基軸に徹底)

供給高1億円あたりのCO₂排出量の推移

2023年度の車両燃料使用総量を削減し、CO₂排出量も1,151 (t-CO₂)となり、2022年度対比2.5%減でした。あわせて、供給高1億円あたりのCO₂排出量は5.8%削減しました。ディーゼル車の減車によるところもありますが、今後もより一層環境に配慮した車両使用をすすめていきます。 ※宅配事業は配送委託のため、(株)コープサービスおおいたと(株)流通サービスの数値も含みます。

全体		2022年度		2023年度	
		実績	CO ₂ (t-CO ₂)	実績	CO ₂ (t-CO ₂)
ガソリン(L)	CO ₂ 排出量	265,286	615	260,874	605
軽油(L)	CO ₂ 排出量	212,331	548	208,533	538
LPGガス(m ³)	CO ₂ 排出量	6,026	18	2,639	8
合計	CO ₂ 排出量	483,643	1,181	472,046	1,151
前年比		104.0%	103.1%	97.6%	97.5%
供給高(億円)	1億円あたりCO ₂	189.62	6.23	193.22	5.96
前年比		99.4%	103.7%	101.9%	95.6%

太陽光発電レポート

2023年度の総発電量は653,163kWhとなりました。

	2022年度(kWh)	2023年度(kWh)
コープ南大分	206,941	200,530
コープ下郡 ※1	180,657	172,449
三重センター	56,281	52,778
宇佐センター	59,815	57,888
日出センター	58,082	56,681
コープ別府店	58,401	59,002
コープうすき	55,819	53,835
合計	675,996	653,163

※太陽光発電による発電量を大分県の実用電力で換算すると、287人分の年間使用電力に相当します。(大分県統計データ 平成27年度の年間家庭用電灯使用電力量にもとづき1人あたり2,274kWhにて算出しています。) ※1 2024年3月20日閉店

資源回収の取り組み

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2023年度も多くの組合員みなさんに、コープおおいたのさまざまな環境活動にご協力いただきました。

2023年度 回収量の報告

古紙類(牛乳パックとカタログ等)

約**99万6,820kg**

前年比**99.1%**

回収量の7割がトイレトペーパーやティッシュの実質の原料となります。コアノンロール130m(S)1個276gで換算すると、約361万1,668ロールが再生されました。

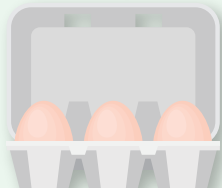


タマゴパックの回収量

約**6,316kg**

前年比**110.5%**

タマゴパックは、古紙や木屑と一緒にリサイクルされてRFPという固形燃料に再生されます。RFPはさまざまな工場でボイラー燃料として利用されています。



プラスチックトレイの回収量(店舗)

約**2,820kg**(約**56万4,000枚**)

前年比**114.8%**

枚数は1枚平均5gとして換算。回収されたトレイは、一旦溶かされてエコトレイになります。店舗で使用している一部のトレイはリサイクルされたエコトレイです。



マイバッグ持参人数(店舗)

373万4,628人

前年比**101.7%**

マイバッグ持参率87.1%。レジ袋1枚に原油10ml(原料+製造エネルギー用)が使用されています。



ペットボトルキャップ回収量(店舗)

約**1,914kg**
(約**76万5,600個**)

前年比**68.7%**

回収されたペットボトルキャップは、回収業者を通じてプラスチックのリサイクル原料として再生され、トレイや園芸用品になります。



集品袋・カタログセット袋回収量(宅配)

約**8,709kg**
(**290万3,000枚**)

前年比**109.5%**

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。リサイクルポリ袋として再生されています。



廃油回収量(店舗)

約**3万5,026ℓ**

前年比**84.6%**

ドラム缶に換算すると、約88本分に相当。バイオディーゼル燃料や、一部はせっけんに生まれ変わっています。

※コープおおいたでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行っています。



※コープ大分駅店はテナント出店のため、リサイクル回収BOXの設置、廃油の回収ができず対象外となります。 ※イラストはイメージです。

HISTORY

| コープおおいたと地域の歩み |



1952年
5坪の店舗から
はじまった
コープおおいた



1965年
組合員の
声から
生まれた
コープみそ



1986年
地域の公民館で
出張販売



1988年
牛乳パック
回収活動を開始



1999年
宅配の
個人配達を開始

2011年
弁当宅配・
移動店舗販売を開始



2017年
店舗無料送迎
お買い物サポートカーの
運行を開始



2022年
小規模多機能ホーム
にじろ下郡開所

1952年

2022年

組合員数(人)

● 1年間のできごと

[2023年4月-2024年3月の組合員数推移]

2023年5月
九重田植え体験



2023年8月
産直交流会 in
コープ別府店



2023年7月
日田市災害ボランティア



2023年9月
九重稲刈り体験



2023年9月
さつまいも収穫祭



2023年10月
キッチンカープロジェクト
「むすびや」始動



2023年12月
親子deクリスマスパーティー



2023年12月
みんなの居場所
ぬく森オープン



2024年2月
コープ南春日オープン



2024年3月
姫島村と包括連携協定



2024年3月
佐伯市と包括連携協定



組合員数(人)

2023年

2024年

170,000

180,000

190,000